

令和5年8月22日

「令和5年度第1回山陰道地すべり対策検討委員会」 の開催結果及び今後の予定について

令和5年8月22日に開催した「令和5年度第1回山陰道地すべり対策検討委員会」の開催結果及びその結果に基づいた今後の予定についてお知らせします。

〈地すべり検討委員会結果〉

- ・議事次第、出席者配席表・・・・・・・・別紙－1
- ・説明資料・・・・・・・・別紙－2
- ・結果要旨・・・・・・・・別紙－3

〈今後の予定〉

○地盤伸縮計を用いた監視を行い、2mm/hの変位が確認された場合、通行止めを行う。

○観測機器等により得られたデータを用いて、恒久対策の検討を行う。

問い合わせ先

国土交通省 中国地方整備局 松江国道事務所

副所長（管理） 伊藤 法政（いとう のりまさ） （内205）

【担 当】管理第2課長 中尾 真也（なかお しんや） （内441）

【広報担当】計 画 課 長 山本 活稔（やまもと かつとし）（内261）

TEL：（0852）60－1345（直通）

：（0852）26－0611（夜間・休日）

URL：<http://www.cgr.mlit.go.jp/matsukoku/>

※松江国道事務所では、X(旧twitter)による情報発信を行っています。

X(旧twitter) http://twitter.com/road_matsue

※道路の異状を発見したら、道路緊急ダイヤル 緊急通報#9910へ

QRコード



山陰道地すべり対策検討委員会

日 時：令和5年8月22日（火）13:30～
場 所：松江国道事務所 3階会議室

議 事 次 第

1. 開会

- 1) 松江国道事務所長 挨拶

2. 議事

- 1) 設立趣意書、及び規約の改定について
- 2) 被災状況と要因
- 3) 応急対策工（地すべり抑制等）の対策状況
- 4) 恒久対策の方向性
- 5) 監視体制について
- 6) その他

3. 閉会

令和5年度第1回山陰道地すべり対策検討委員会

出席者配席表

スクリーン

事務局

事務局

PC・WEBカメラ

委員

国立研究開発法人 土木研究所
上席研究員 浅井 健一

委員

松江国道事務所長
近藤 弘嗣

出入口

委員

国立研究開発法人 土木研究所
上席研究員 杉本 宏之

委員

中国地方整備局 道路部
道路情報管理官 前田 文雄

委員

国土技術政策総合研究所
道路基礎研究室長
渡邊 一弘

委員

島根大学
准教授 小暮 哲也

報道席

報道席

マイク・スピーカー

委員長

松江工業高等専門学校
教授 河原 荘一郎

写真①



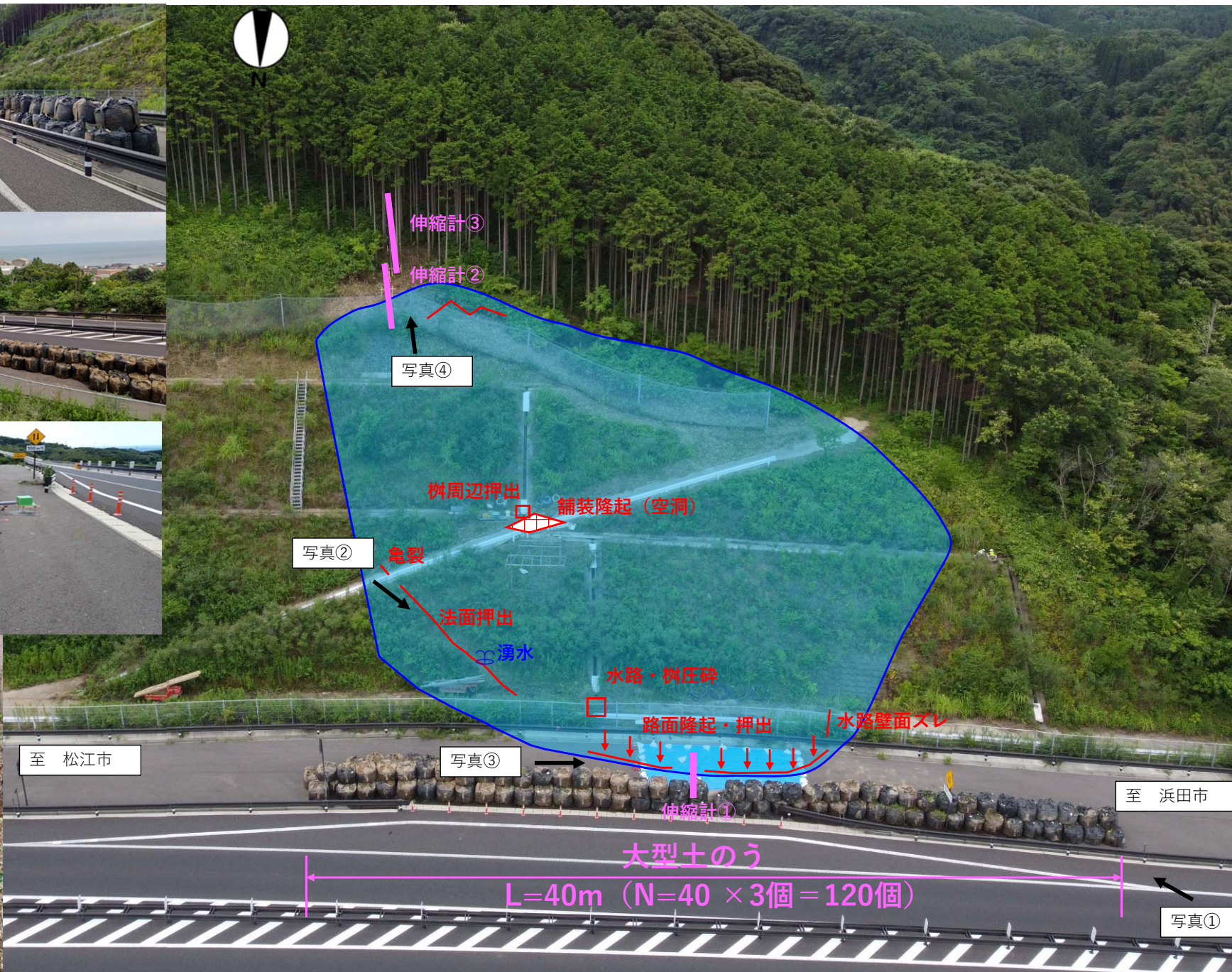
写真②



写真③

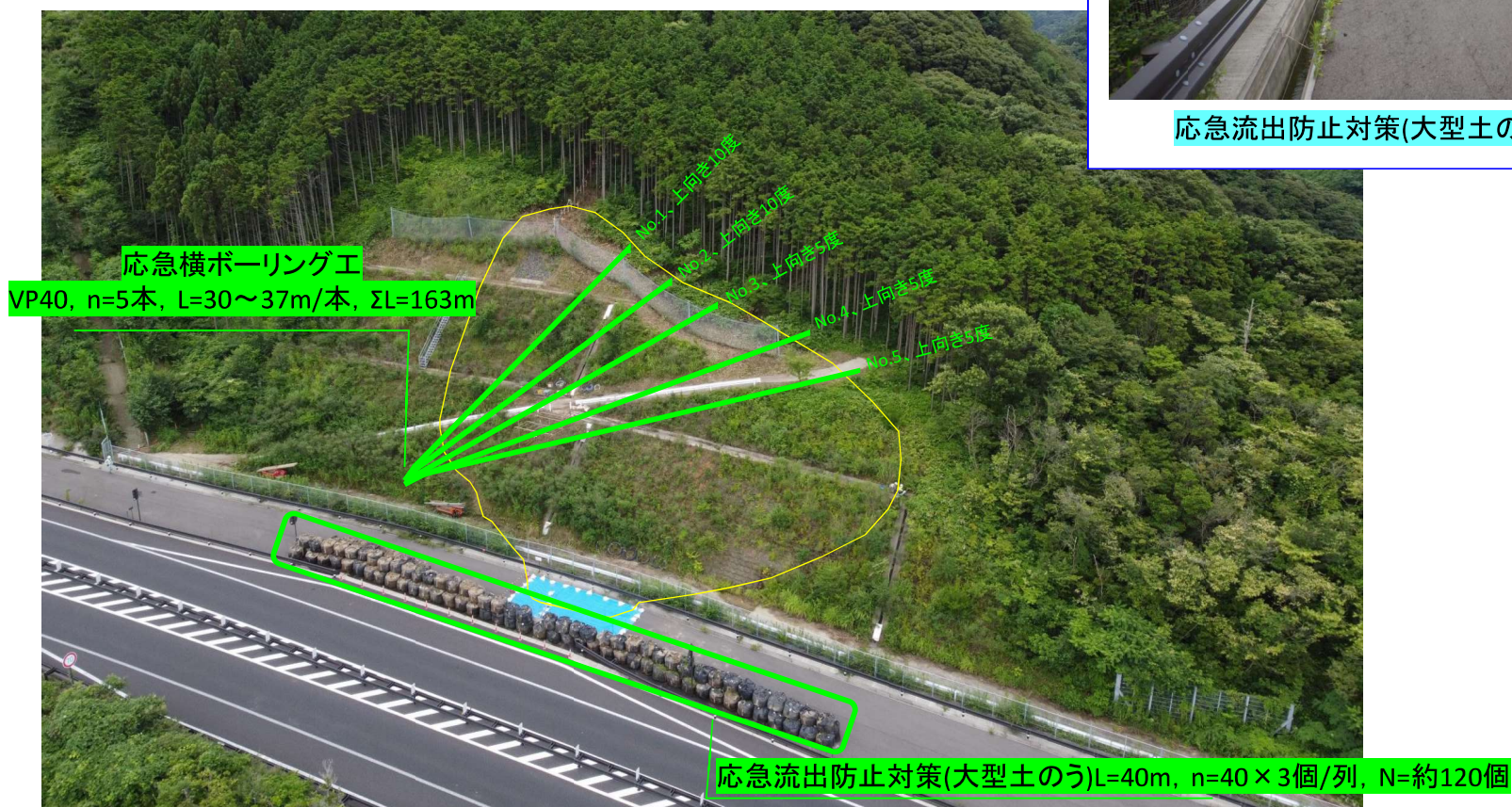


写真④



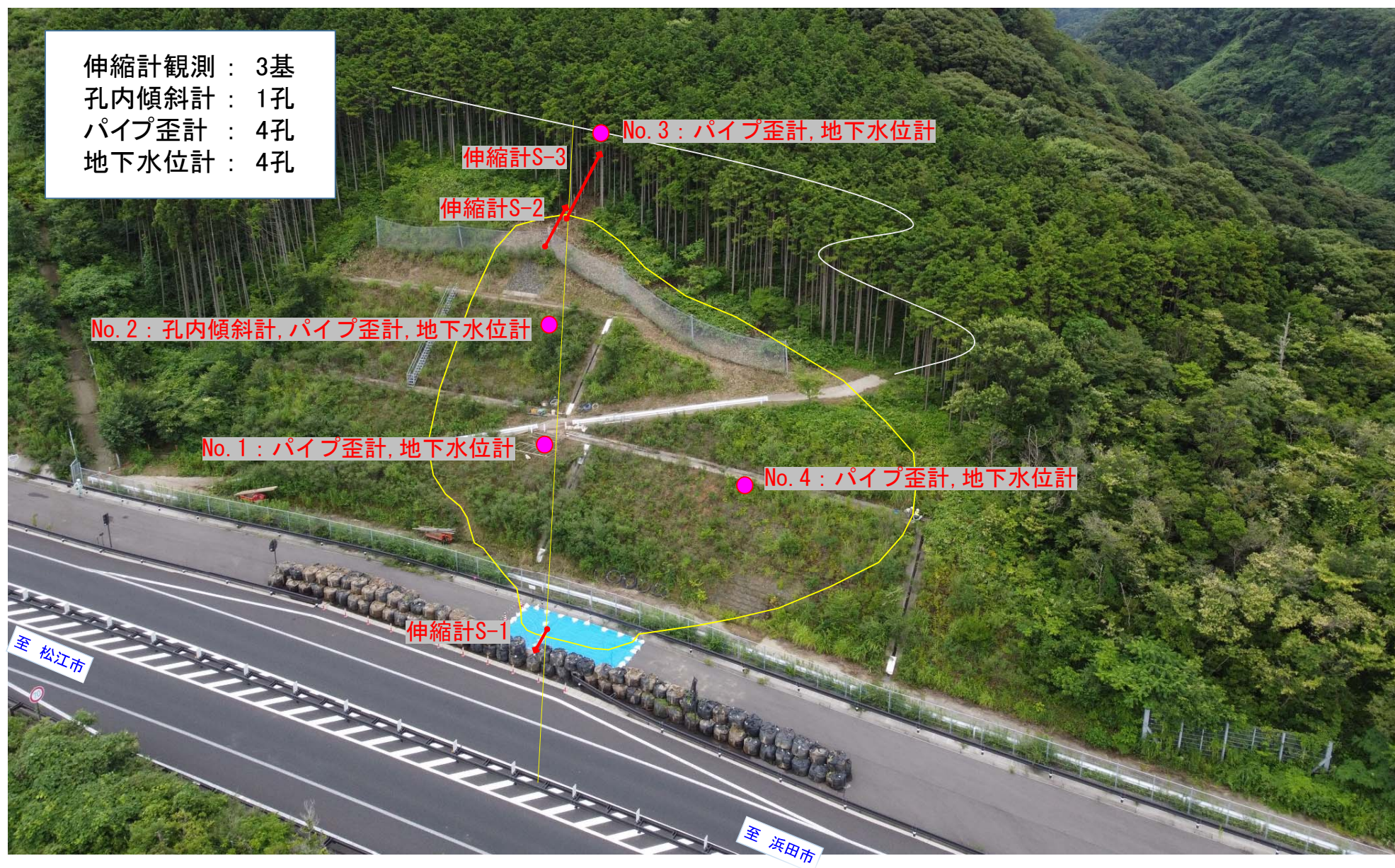
■ 応急対策工施工状況

- ① 応急横ボーリング工を施工
- ② 応急流出防止工として大型土のうを設置



応急流出防止対策(大型土のう)設置状況

■ 観測計器の配置状況



○被災状況

- ・ 7月7日～7月9日までに降り続いた大雨により、路面変状が発生。
- ・ 現地確認の結果、道路法面に地すべりが発生していることを確認。
- ・ 地すべりの規模は、概ね幅50m、高さ20m、奥行き45mであると推定される。

○これまでの応急対策の実施状況（8／22時点）

- ・ 応急地下水排除工（横ボーリング工 5本）を実施。
- ・ 大型土のう積み（約120個）を実施。
- ・ 地盤伸縮計（N＝3箇所）で常時観測を実施。

○地すべりの危険性について

- ・ 地すべりの範囲は概ね特定でき、地すべりの範囲が拡大する兆候は見られていない。
- ・ また、地すべりの進行についても、現状では地盤伸縮計の変動は見られない。
（7月11日に地盤伸縮計の設置が完了した以降、2mm／h以上の変動は確認されていない。）

○監視体制

- ・ 地盤伸縮計が2mm／hを越えた時点で警報メールを発信し、通行止めを実施。
- ・ 通行止め区間は、出雲多伎IC～大田中央三瓶山ICの区間。

○恒久対策の方向性と今後の予定

- ・ 恒久対策の方向性は、「抑止工」と「抑制工」を組み合わせた対策を基本として検討する。
- ・ 観測機器等により引き続きデータを取得し、取得したデータを用いて速やかに恒久対策の検討を行う。

《観測機器の設置状況》

- ・ 地盤伸縮計 N＝3箇所
- ・ 地下水位計 N＝4箇所
- ・ パイプ式ひずみ計 N＝4箇所
- ・ 孔内傾斜計 N＝1箇所

【委員会での議論の結果】

被災状況、これまでの応急対策、地すべりの危険性、監視体制、恒久対策の方向性と今後の予定については、概ね妥当である。